

## 第6回今治市中心市街地創生デザイン会議 議事概要

日 時：令和6年11月29日（金）午後1時30分～午後3時00分

場 所：今治市みなと交流センター「はーぱりー」 1階 みなとホール

出席者：大成経凡、羽鳥剛史、菊川堅吾、原竜也、友田康貴、長野和幸、森昇平、白石道子、青陽孝昭、松野義也、山本優子（第一号委員から第三号委員毎に五十音順）

### 議事

『今治市中心市街地グランドデザイン』の策定に向けて

- (1) 第5回デザイン会議の振り返りと本日の検討事項
- (2) 第6回公共空間再編部会における検討内容
- (3) 公共施設等再編部会における検討内容
- (4) 今後のスケジュール

### 議事概要

#### 【委員意見】

○ネットワーク空間特性とアクティビティ分析の結果等について

- ・ マルシェ開催時の賑わいは十分だが、通常時との落差が激しいと感じた。マルシェは毎日できないが、平日に小規模なマルシェを行えばギャップは埋まるのではないかと考えている。
- ・ まだ案の段階であるが、商店街の不動産を活用できないかと考えている。例えば、商店街の空き店舗でマルシェ開催時にお試しで出店できるようにすることを考えている。
- ・ 平日にまちを利用している多くは中高生や高齢者なので、その人たちに対して何をしていくかが大事である。金星川に若者が集まっている写真があったが、このような風景が日常に広がればよいと思った。中高生の滞留空間を商店街に創出できればと思う。
- ・ 今治城はインバウンドも含めて多くの方が来ているのに、そこからどこにも寄らずに帰っている。今治城までの動線をつなぐことは重要である。
- ・ 事務局の説明の中で「横道」（商店街や広小路に対して垂直に伸びる道）があったが、これは江戸時代の城下町の通りである。広小路は近代に整備された幹線道路であり、これらが交差してできたのが現在の今治のまちなみになる。デザイン戦略では、双方の良さを生かして検討を行うべきである。

○広小路の整備パターンについて

- ・ 歩道を広げると、車で流入していた交流人口が減ってしまうのではないかと懸念を感じた。  
⇒社会実験でも、道路空間を再編することによって車両交通に支障をきたすかどうか検証する必要がある。

- ・ D案（中央緑道案）が良いと思う。交通や沿道居住者にも影響は少ないと思われるし、景色が格好いいと思った。
  - ・ イベント時の賑わいを広げるためには、まずはそれができる環境がまちなかにあることが大事で、広小路は可能性が十分にあると感じた。C案（北側歩道拡幅案）以外であれば、活用しやすいのではないか。
  - ・ 商店街の空き店舗活用について、ハードルは高いと思うが、広小路の社会実験までに始めないともったいない。広小路の将来ビジョンを共有し、その実現に向かって取り組んだ方が声掛けもしやすいと思う。
  - ・ そもそも広小路を整備して何を行いたいのか。歩くための空間であれば既に商店街があると思う。とりあえずやってみる、という程度であれば、費用対効果を考えるとマルシェに補助をした方がよいのではないか。
- ⇒【事務局】今治はまちなかに人が少なく、目的となる場所やまちとしてシンボルになる場所があまりない状態である。今治港の航路が廃止され、広小路は交通量に対して道路幅員が十分すぎるのではないかと考えた時に、より価値化し、市民が誇れるようなシンボル性のあるものにしていくことはできないかと考えた。再編を検討する時に、そのような要素を追加するべきかについては引き続き議論していきたい。